

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 2月 20日

事業所名 児童発達支援センターぐるんぱ(放課後等デイサービス)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・生活シナリオを作成し、子どもさんが活動するエリアの調整を行っている。 ・活動内容や子どもさん同士の相性を踏まえて対応している。	・定期的に生活シナリオを見直し、必要に応じて屋外での活動も取り入れていきます。
	2	職員の配置数は適切である	○		・職員の専門性向上のため、法人内外の研修に参加する機会を設けている。	・今後も継続的に事業所内で研修を行ったり、外部の研修に参加したりします。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・子どもさんの障害特性や社会性に合わせて環境を調整し、必要に応じて再構造化を行っている。	・障害特性や社会性に合わせた環境設定の中で、子どもさん1人ひとりに合った手立て等を活用しながら、支援を行います。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・課題や改善案について、職員会議で協議している。	・各職員が改善の意識を持って取り組み、職員全体で協議できるようにします。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・年1回、保護者の方向けに評価表を配布し評価を受けている。 ・また、面談や日頃のやり取りからも保護者の方のニーズを把握し、必要な改善案について検討している。	・日常的に保護者の方のニーズを聞き取りながら、改善対応に努めます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・事業所の玄関やホームページ等で、結果を公表している。	・結果を踏まえて、改善が必要な内容について検討します。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・法人全体で協議、検討します
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・法人内研修や外部研修に参加し、復命書や朝礼の場で内容を共有するようにしている。	・今後も職員の専門性を高めていけるよう、継続的に研修に参加します。 ・研修内容を共有し、よりよい支援のための提案機会を設けます。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・アセスメントや子どもさんの課題、保護者の方のニーズ等を踏まえて、個別支援計画を作成している。 ・年2回モニタリングを行い、保護者の方と面談を行っている。 ・学校での様子や課題についても聞き取り、個別支援計画に反映している。	・アセスメントをもとに、子どもさんの様子や課題・保護者の方のニーズ等も踏まえて、支援を行います。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・事業所で設定された、アセスメントツール(項目)や評価表に沿って実施している。	・継続的にアセスメントを行い、子どもさんの理解やスキルに合わせて個別支援計画を立案し、療育を行います。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・ケース担当職員を中心に、ミーティング等で協議したうえで、実施・振り返りを行っている。	・今後も職員全体で協議や振り返りをしながら、進めていきます。 ・特に、社会性やコミュニケーションなど、学校では学びにくい部分を重点的に学習します。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・定期的に生活シナリオを更新し、スケジュールの内容が習慣にならないように対応している。	・集団活動の内容など、工夫できる点やアイデアがある場合は会議等で検討します。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・長期休暇については、外出企画など、ふだんの療育の中で積み上げたスキルを地域の中で活用する機会を作っている。	・個別支援計画に基づいて、課題設定を行います。 ・長期休暇については、今後も地域での活動を取り入れます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・学年や社会性の違う子どもが利用しているため、同じ活動をすすめる際にも、それぞれのスキルに合わせて役割を持たせたり、目標設定を変えて対応している。	・今後も、本人のスキルや理解に合わせて活動の設定を行います。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・朝礼で確認を行うほか、その日のシナリオを手元で確認できるようにしている。	・情報共有の利便性・確実性について検討しながら、今後も職員全体で情報共有する機会を設定していきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・終了後にその日の担当者間で振り返りを行っている。	・定期的に打ち合わせを実施し、支援の振り返りを行います。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・ケース記録を作成しているほか、勉強で取り組んだ内容については、共通の書式で記録を残している。	・ケース記録と併せて、継続して活動の記録を共有できるようにします。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・年2回、モニタリングを実施している。	・今後も定期的なモニタリングを行い、本人の特性や状態に合わせた目標設定をします。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		・個別支援計画に基づき、個別場面や集団場面での活動を設定している。	・今後も個別支援計画に基づいて、必要な経験を積むための活動を設定していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			・サービス担当者会議の持ち方について、相談支援事業所と協議・検討します。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・必要に応じて、学校の教員と連携・情報共有を行っている。 ・行事予定などは、保護者の方を通じてお知らせいただいている。	・その都度、必要な情報共有を行い、連携して対応できるよう努めます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	・医療的ケア児の受け入れは、現在行っていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・児童発達支援から継続利用の子どもさんが多い。 ・新規で利用する子どもさんについては、必要な引継ぎを行っている。	・移行前のケース記録や資料をもとに、一貫した支援が行えるように努めます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		・他の事業所へ移行するケースは、必要な支援内容などを引き継いでいる。	・移行先の職員、対象児童の保護者も含め、移行資料をもとに連携を行っていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・職員や保護者の方向けに行う研修の講師を依頼し、必要に応じて助言を受けている。	・他機関や専門機関の研修に継続的に参加し、連携・対応できるように努めます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		・子どもさんの障害特性や保護者の方からのニーズをもとに、設定の有無について検討します。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・月1回、子ども部会へ参加している。	・今後も、地域でのニーズ等について共有を行い、課題の解決に協力します。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・日々、送迎時に様子をお伝えしている。 ・各活動の様子については、資料にまとめて懇談時にお伝えしている。	・送迎時や懇談資料を活用して、保護者の方と丁寧に情報共有を行っています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		・定期的な個人懇談のほか、必要に応じて面談を実施している。 ・学習会を開催し、参加できなかった方にも資料の提供を行っている。	・今後も保護者の方が、障害特性の理解や支援方法等の情報を得られるような場を設定していきます。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・利用契約時に、書類をもとに説明を行っている。	・内容に変更があった場合は、随時保護者の方にお伝えします。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・年2回、個人懇談を行い、必要に応じて個別に面談を実施している。	・今後も保護者の方からの要望を聞きながら、家庭との協同に努めます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・保護者の方のニーズをもとに、必要性について検討します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・担当者を設置している。	・受け付けた内容を書面で記録し、対応や改善方法については職員全体で協議・共有します。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・法人機関誌を発行している。 ・長期休暇の活動内容を中心に、ホームページで紹介している。	・予定や活動概要等、保護者の方への発信方法について検討します。
	35	個人情報に十分注意している	○		・写真の使用に対しては、事前に確認を行い、書面で同意を得ている。	・職員全体で意識して取り扱います。また必要に応じて、適切な取り扱いについて協議します。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・子どもさん一人ひとりの理解に合わせて、手立てを活用した支援を行っています。	・子どもさんの理解やスキルに合わせて、継続的にコミュニケーションの支援を行います。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	・法人全体では実施している。	・保護者の方のニーズや必要性を踏まえて、法人全体で検討します。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・感染症や緊急時の対応(子どもさんの怪我が体調不良等)について、マニュアルを作成している。	・必要なマニュアルや対応方法について、適宜見直しを行います。 ・必要な訓練の実施について検討します。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・児童発達支援とあわせて、職員向けに防災訓練を実施している。	・定期的に防災訓練を実施します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・研修の機会を定期的に設定し、職員会議の中で全体確認を行っている。	・継続的に研修に参加し、全体で意識して取り組めるよう確認や振り返りを行います。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・必要な対応については保護者の方に説明し、了解を得ている。また、その旨を生活支援シートに記入し、面談の場で説明をしている。	・必要な場合は保護者の方に資料等で説明を行います。 ・判断基準等を、職員が正しく理解するための研修を行います。 ・可能な限り身体拘束を行わない対応を事業所全体で協議し、子どもさんの理解に合わせた支援を行います。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	・基本的には提供を行っていません(長期休暇を除く)。	・飲食物の提供をする際は、保護者の方と連携し、事前の確認や対応を行います。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	・事例集はないが、ヒヤリハットや怪我があった時には全体で共有している。	・ケガや事故への対応を職員全体で共有し、再発防止に努めます。

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。